

平成24年度第1回箕面市廃棄物減量等推進審議会 会議要録

開催日時	平成24年9月27日(木) 13:30～15:00
開催場所	箕面市環境クリーンセンター 3階 会議室
出席委員数	10名
欠席委員数	4名
傍聴者数	3名

1. 箕面市ごみ処理基本計画について

【案件1】 ごみ処理基本計画の今後の考え方について(資料1)

- ・計画延長に伴う検証(資料2、3、4)
- ・計画延長に先行して整理すべき課題(資料5)

【案件2】 生活排水処理基本計画の検討について(資料1)

- ・計画の構成案(資料6)
- ・計画策定に先行して整理すべき課題(資料7)

【案件3】 その他

2. 案件について

	<p>【案件1】 ごみ処理基本計画の今後の考え方について</p> <p>・事務局説明</p> <p>【主な質疑応答】</p>
委員	燃えるごみ専用袋の福祉加算の配布枚数が、30リットル袋100枚の根拠は。
事務局	週に2回可燃ごみの日があり、年間52週あるので100枚となっている。
会長代理	大型ごみの減少に伴い月2回の収集の必要性が低いと思うが、月1回の収集にする場合のタイムスケジュールは。
事務局	月1回の収集で実態上対応できるかとは考えるが、月2回から1回になることが少し不便にならないか、又他市においては定日収集を行わず申し込みのみのもところもあり、他市の事例を見ながら大型ごみの収集の形態をどういうふうにしていくか、もう少し時間をかけて検討していきたい。

委員	市としては、定期収集よりも持ち込みの量が多いほうがいいのか、値段を下げて月2回の収集を少し増やしていくことがいいのか、どちらのほうがいいのかと考えるのか。
事務局	<p>市としては、ごみの減量が基本的にあり、有料化によってかなり減量化できたところは大きな成果だと思う。</p> <p>また、施策を実施するうえでコストがとても大事なことであり、コスト面からすると持ち込んでもらう方がいいが、対応する人員が必要となりバランスが大切である。</p> <p>なお、基本的に定日収集が減って持ち込みが増えている傾向自体は好ましいと思っているが、コスト的にどの選択肢が良いのかは、研究課題と思っている。</p>
事務局	<p>収集の現状は、月2回まわって空便の地域も結構あり、出せる量も1回1点2袋限られた量であり、出せる量を増やして月1回に集中して出していただけるようにして、我々も出動回数を減らすことにより、燃料代も節約になる。また、その分の人員は他に回し仕事の効率を上げることができるのではと考えている。</p>
委員	<p>大型ごみ処理券が高いと思う。無料にする必要はないと思うが、もう少し安かったら月2回月1回とか半年に1回でもいいと思う。値段が安いと、ごみの量が増えることになるのか。</p>
事務局	<p>考え方としてはそうなる。しかし、市民サービスという面も大切なので、仮に金額を下げてもごみを減量できるような方策があればそれは一つの方策と思う。今のところは現行料金によって量が減っているという一つの成果をもとに、今後のあり方を検討することになると思う。</p>
委員	<p>大型ごみは、シーゾ的な変化があり、大掃除の日とか入学・入園とか大きな行事があり、そういったときにたくさん出るが、出ないときは極端な月もあるので、それを調査しながら対応し、柔軟性をもった組み合わせ方をしてはどうか。</p> <p>また、現状を細かく調査すればある程度予測が出来るので、その状況に対応しながら回数を減らしても効率よくしていくことを考えてほしい。</p>
事務局	<p>今言われたように、大型ごみというのは季節によって増減が激しい。対応を考える必要があると思う。</p>
委員	<p>大型ごみと燃えないごみの持ち込みが多いということですが具体的にどういったものが多いのか。</p>
事務局	<p>ほとんどの場合、持ち込まれるのは大型ごみに近いもので、プラスチックケースなど小型で燃えるごみとして出せない物を、一気に片付けたいという方が多い傾向に</p>

	<p>ある。日々片付ける中で、可燃ごみの袋に入らず不燃ごみとしても処理できないものを車に一切合財積んで持ち込む人が結構多い。</p>
委員	<p>見直し概要のチャートで、65歳以上で紙おむつの人と障害者の1・2級で紙おむつの人がほぼ同数に見える図になっているが、実際の数とは違うと思えるので、実態に合わせて図を作成すべきだ。</p>
事務局	<p>たしかに、同数に見えるので以後、資料作成にあたっては留意する。</p>
委員	<p>障害者手帳の3級で紙おむつを多量に排出とあるが、これは希望者が利用しているのか。</p>
事務局	<p>障害者手帳3級の方でも紙おむつを使わない方もおられる。例えば内臓障害を受けているような方でどうしても紙おむつを使い、なおかつ紙おむつを多量に使われる場合があるということを書いている。</p>
委員	<p>何をもって多量とするのか。</p>
事務局	<p>実態上、多量に紙おむつを排出する方が福祉的な紙おむつの支給対象になっている。その方を今回対象にするので、ご本人に多量か少量か判断してもらうのではない。ここで多量と書いてしまうのはわかりにくいと思うので、修正する。</p>
委員	<p>65歳以上の在宅で紙おむつを使用している人が、市役所で手続きをすれば、ごみ袋がもらえるのか。</p>
事務局	<p>ごみ袋の福祉加算配布申請をしていただき、ライフプラザの高齢福祉課及び障害福祉課へ照会を行い、認定要件に合致すればごみ袋を渡している。</p> <p>また、今まで1級と2級に限定していたが、新たに3級で内臓疾患の方はもらえないという状況にあったので、その方に障害福祉が紙おむつを支給している場合、それにあわせてごみ袋を配布できるようにするため、今回改正しようとするものである。</p>
委員	<p>福祉加算の100枚というのは、家庭によっては多すぎるかもしれない。例えば邪魔になってしまうとか、家庭で希望される枚数を配布するほうがいいと思うが。</p>
事務局	<p>検討する。</p>
委員	<p>大型ごみの収集の見直し要因について、たとえばソファ等を買うと同数であれ</p>

	<p>ば無料引き取りしている。ただこれは、受け皿が変わっているだけで、実際には産廃で回っている。そういった要因分析をきちっとされないで、減ったと単に書くのではなくて、市場の状態を分析したうえで書いた方がいいと思う。</p>
事務局	<p>今回は、平成15年度から16年度にかけて市が行なった制度変更の要因だけを書かせていただいた。今後は他の要因を含めて分析したい。</p>
委員	<p>大型ごみの持ち込みがすごく増えているが、これから高齢化していく中で大型ごみを持ち込むことはできなくなるはずなので少なくなると思うが。</p>
会長	<p>若い人が多く持ち込んでいると思われる。</p>
委員	<p>大型ごみの排出量について、平成23年度市民一世帯当たり54kgで、3,065tだが、計算すると箕面市は6万世帯もあることになる。</p>
事務局	<p>約5万6千世帯ある。</p>
委員	<p>人口推計で、当初計画と改訂版の誤差が約6万人となっていますが、そんなに差が出るものか。</p>
事務局	<p>人口推計は総合計画の段階で見直している。一番大きなものは各開発プロジェクトの関係で、実際は後ろに少しずつずれていっている。このデータで改訂版の数字を見直したので誤差が生じている。</p>
委員	<p>いまの人口のことで開発の話聞いていますが、どこまで反映されたものか30年とかの話も反映されているのかが気になった。</p>
委員	<p>人口の推計と実績を比較場合は、実績排出量に対して人口推計に原単位を積算した数字に対して検証をするんですか。</p>
事務局	<p>細かいのでここには書いてないが、実際は推計された人口と実績の人口の差だけでも、ごみ量には変化が出てきますのでその部分は実績人口と推計人口で按分してその差を調整している。</p>
委員	<p>燃えないごみの件で、燃えないごみが燃えるごみに入っていた、そういうケースは実際増えていないか。</p>
事務局	<p>収集していて混在というのはないが、傘の取り扱いについての問い合わせがよく</p>

	<p>ある。そういうときは半分に折って燃えないゴミ袋に入れていただくようにと説明している。</p> <p>【案件2】生活排水処理基本計画の検討について</p> <p>・事務局説明</p> <p>【主な質疑応答】</p>
委員	<p>生活排水処理のところで猪名川、安威川、池田処理と書いてあるが、箕面市は自前の処理場を持ってないということか。</p>
事務局	<p>持っていない。</p>
委員	<p>処理費を豊中、茨木、池田に支払っているということか。</p> <p>(注:猪名川流域は豊中市、安威川流域は大阪府、池田処理区は池田市にそれぞれ支払っている。)</p>
事務局	<p>し尿については、希釈して公共下水道に流していた経過がある。施設の老朽化で使えなくなり、平成19年10月から豊能町に処理を委託をしている。</p> <p>現在、以前と同じような施設ではないが、希釈をして工場排水で薄めて下水道へ放流するという計画をしており、来年度から自前で下水道へ流すような形になる。</p>
委員	<p>下水道処理施設を広域でどこかが持っているということか。</p>
事務局	<p>これまで30年間下水道処理については、広域処理で対応をお願いしてきており、箕面市で処理施設を持つことなく、今の下水道の構造からも不可能かと思えますし、今後も広域処理で進めていくことになると思う。</p>
委員	<p>新設、あるいはこれらの三拠点以外に変更する計画はないということで、箕面市は大丈夫か。</p>
事務局	<p>箕面市の場合は下水道普及率が99.9%で、今回の増加量は少量であり、箕面市分を受け入れられる公共下水道のキャパはあると思う。</p>
委員	<p>お願いしてくるところが増えてきて箕面市さん少し遠慮してほしいということはないか。</p>

事務局	基本的に、府の基本計画があって市の計画があり、整合されているので、それはないと思う。
委員	手数料をなぜ40年間維持してきたのか。全然コスト意識がない、例えば工事現場であるとコストに入れて、お客さんに請求すべきなのでこれは当然あげるべきである。
事務局	基本的な考え方はそのとおりだ。様々な理由があって現在に至っていると思う。最終見通しとしてはフルコストを見とおしながらやっていきたいと思う。
委員	それを理解してやってほしい。
会長	さきほどの処理施設から受け入れを拒否されることがないのかということですが、今水の使用がどんどん減っていて、実は下水がほしいという状態であり、下水処理場としては下水がほしいというところもあるので、よろこばれると思う。
会長	それでは、案件3その他についてはいかがですか。
事務局	特にありません。
会長	特にないようなので、今日の審議会は終了する。 次回の日程をお知らせ願いたい。
事務局	次回の開催予定は、ごみ処理基本計画(延長版)案と生活排水処理基本計画案についてご意見をいただきたい。内容等が整えば、ご案内する。
会長	以上をもって、平成24年度第1回箕面市廃棄物減量等推進審議会を終了する。